



麻布幼稚園だより 6月号

平成29年5月31日 港区立麻布幼稚園 園長 大島 美知代

「怪我をして感じたこと」

園長 大島 美知代

5月はこいのぼりが青空を舞い、新緑のきれいな季節。年長組は友達と一緒にこいのぼりを作りました。世界で一つしかないきれいな色で素敵な模様のこいのぼりでした。

楽しみにしていた「さくらんぼ」の収穫。先生たちは毎日さくらんぼが熟する様子をながめ、用務主事さんと相談し、連休を迎えました。連休後には「あっ、さくらんぼが…ない!」ということに。結局、今年度は数粒しか収穫できず、年長組だけ食べました。口に入れたさくらんぼは何と半粒。とっても貴重な体験でした。5月には5年生との交流や健診や遠足時には下の学年とも関わって親切にお世話をし、ぐっと年長としての自覚が高まった月でした。

年中組は制服の着替えにも慣れ、お弁当の活動も板に付いてきました。新入園児と進級児の関わりも増え、元気に遊べるようになってきました。新しい担任の先生に信頼を寄せ、28人はとてもにぎやかです。

年少組は保育時間が延び、お弁当が始まりました。初めての避難訓練、誕生会にも参加しました。外遊びでは元気に滑り台を滑り、室内遊びではお医者さんごっこ、電車ごっこ、お姫様になって踊ったり、歌ったり、と自分の好きな遊びを見つけて楽しんでいきます。

さあ、6月。むし暑い日、雨の日、いろいろな季節の変化も見られる月です。プール遊びも始まります。もも組は保育時間がだいぶ長くなってきます。お子さんの体調には留意して元気に夏を迎えましょう。

体調を、と自分で言うとおきながら私は不注意で怪我をしてしまいました。園児たちにも保護者にもご心配をおかけしてすいません。もも組も私にそおっと近寄ってきて、包帯の腕を不思議そうに触り、「どうしたの?」と心配してくれます。

今回の怪我で感じたことがあります。それは健康のありがたさ、普段の生活で自分の体が普段通りに動くことの嬉しさです。左手に怪我をしたら、ペットボトルの蓋も開かず、今着替えたいと思っても手伝ってもらわないとうまくできないのです。お料理もできなければ、お風呂に入るのも大変です。家族を呼ばないと自分のことが自分でできないのです。こうなってから改めて「注意して歩いていたら転ばなかったのに!」と大反省。悔やんでも遅い、遅い! 不便だとイライラしても怪我はすぐに治りません。左手もとても大切な手なんだと感じました。私は怪我が治ったら左手の価値をもっと認めようと思っています。今まで丈夫に、何事もなく動いてくれている体に感謝の気持ちがわき上がってきています。

人の体って本当に大切なものです。園児たちはまだまだ長い人生です。体の大切さを分かってほしいと思います。自分の体も人の体も一人一人が本当に尊い命です。何より健康が一番です。幼児期はよく食べて、よく動いて、よく遊び、よく考えて、そしてよい睡眠をとって、体をつくる基本です。それを支えるのは私たち大人の役目ですね。一生を元気で健やかに過ごせる体づくりをしていきましょう。

もちろん幼稚園もぜひ一緒にやらせてください。元気な体は一生の宝ですから。